

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	中央町立中央中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	8	20
生徒数	78	59	71	6	214	

研究の概要

1. 研究主題

生きる力を培う確かな学力の育成はどうあったらよいか。  
～一人ひとりを大切に、学ぶ意欲を高める指導方法を求めて～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年、2年、3年 国語・数学・英語（生徒の理解度に差が出やすい教科であるため）  
3年 選択の英語・数学（個に応じた学力充実と個性伸張のため）  
1年、2年、3年 総合的な学習（学ぶ意欲を培う人間関係づくりと主体的な学習態度の育成のため）

(2) 年次ごとの計画

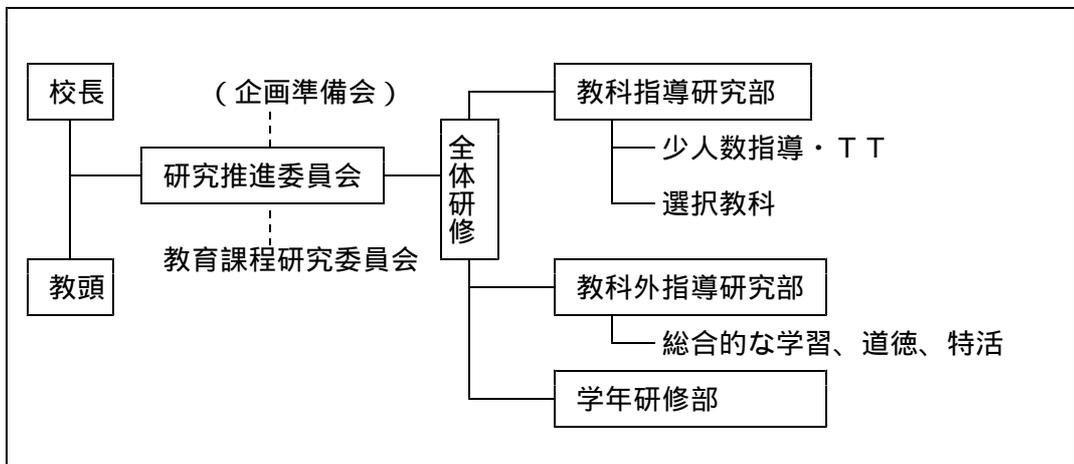
平成14年度	<p>テーマ 学ぶ意欲を高め、基礎学力を充実し、確かな学力を高める指導方法はどうあればよいか。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮説1：共感的な人間関係の育成を基盤に生徒の自己決定の機会を豊かにし、自己肯定感、自尊感情を培えば、自ら学ぶ意欲・態度が高まるであろう。</li> <li>仮説2：生徒の実態をふまえ、目標の明確化を図り、個の特性に応じて少人数指導の工夫を図れば、基礎学力の定着は促進するであろう。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <p>習熟度別少人数指導の実践（1年、2年、3年の数学・英語）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年数学・英語 均等少人数指導等</li> <li>2年、3年数学・英語 1、2、3学期 習熟度別少人数指導</li> </ul> <p>選択教科A 2、3年の異学年縦割集団（8教科10コース制、週2時間）（地域人材活用・・・理科、家庭、美術、体育）</p> <p>選択教科B 3年 英語・数学のコース別指導（個に応じた学力補充方策）</p> <p>地域学校間連携（自己選択による総合的な学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年：地域調べ学習 2年：職場体験学習 3年：地域人材に学ぶ</li> </ul> <p>小学校と連携した授業研究（数学と算数で共同授業）</p> <p>相談室生徒の学習指導（1、2、3年 計8名 週20時間）</p> <p>課外での学力補充（3年生 国・数・社・英・理 一回20分程度 10月～）</p> <p>長期休業中補充学習（2年生 英語と数学 7日 2時間程度）</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 自ら学び、課題を主体的に解決できる「確かな学力」の向上を図る指導方法はどうあればよいか。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮説1：共感的な人間関係の育成を基盤とし、生徒の自己決定の機会を豊かにし、自己肯定感、自尊感情を培えば、自ら学ぶ意欲・態度が高まるであろう。</li> </ul>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮説 2：生徒の実態をふまえた目標の明確化を図り、教科の特性に応じた少人数指導の工夫を図れば、確かな学力の向上が図れるであろう。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <p>少人数指導の実践（1年、2年、3年の数学・英語・国語）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年数学・英語・国語 3年国語 均等少人数指導</li> <li>・ 2年、3年数学・英語 習熟度別少人数指導</li> </ul> <p>選択教科A 2、3年の異学年縦割集団（7教科9コース制、週2時間）（地域人材活用・・・家庭科、体育）</p> <p>選択教科B 3年 数学・英語のコース別指導（個に応じた学力充実方策）</p> <p>地域に学ぶ総合的な学習（自己選択による学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年：地域調べ学習 2年：職場体験学習 3年：地域人材に学ぶ</li> <li>・ 小学校と連携した授業研究（数学と算数で共同授業）</li> </ul> <p>相談室生徒の学習指導（1～3年 週20時間）</p> <p>課外での学力補充（3年生10月～週3回、30分程度）（2年生夏期休業中、5日間、各1時間程度 英語と数学）</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>自ら学び、主体的に課題解決でき、生きる力につながる「確かな学力」の向上を図る指導方法はどうあればよいか。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮説 1：基礎学力を基盤にし、助け合い磨き合う学習の場と、「学び方」の学習を豊かにすれば、主体的に学習する態度が高まるであろう。</li> <li>・ 仮説 2：目標の明確化を図り、教科の特性に応じて少人数指導を工夫し、評価の機会を適切に設ければ主体的に問題解決する力（確かな学力）は向上するであろう。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <p>少人数指導の実践（1年、2年、3年の英語・数学・国語）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年英語・数学・国語 2年国語 均等少人数指導</li> <li>・ 2年、3年数学・英語 習熟度別少人数指導</li> </ul> <p>選択教科A 2、3年の異学年縦割集団（7教科9コース制、週2時間）（地域人材活用・・・理科、家庭、美術、体育）</p> <p>選択教科B 3年 英語・数学のコース別指導（個に応じた学力充実方策）</p> <p>地域学校間連携（自己選択による総合的な学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年：地域調べ学習 2年：職場体験学習 3年：地域人材に学ぶ</li> <li>・ 小学校と連携した授業研究（数学と算数で共同授業）</li> </ul> <p>相談室生徒の学習指導（1～3年 週20時間）</p> <p>課外での学力補充（3年生10月～週3回）（2年生夏期休業中 数学と英語）</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### 少人数指導

均等少人数指導、習熟度別少人数指導とも、個々の生徒に関わる時間が増え、生徒の反応や理解度を捉えやすくなった。また、教師と生徒との人間関係が深まり、生徒の学習意欲も高まった。

さらに、習熟度別であるため、生徒の理解度の差が少なく、学習集団に応じた指導ができた。

#### 英語科

- ・一人一人への声かけなど、細かな配慮ができる。
- ・じっくり取り組むことで「やればできる」という達成感を感じることができる。
- ・テストで書けることで「できた」という喜びを感じることができた。
- ・テストに於いて記号でしか答えられなかったが、単語や文章で答える問題に取り組もうと努力する生徒が増えた。
- ・発表の回数が増え、授業に参加しているという実感をもつことができる。
- ・練習問題や応用的なものを多く取り入れることができる。
- ・自分の課題など、意欲をもって学習できる。
- ・ペアワークやグループ学習が導入しやすい。
- ・個々の生徒に関わる時間が増え、生徒の反応や理解度をより捉えやすくなった。
- ・理解度の差が少ないので、学習集団に応じた指導ができる。
- ・生徒と教師の人間関係が深まってきている。

#### 数学科

- ・基本的な内容をゆっくり繰り返しながら指導することができる。
- ・人数が少ないことで、個々の質問に応じることができ、理解を深めることができる。
- ・学習内容だけでなく、生徒の個性（性格や行動）に応じた学習をすることができる。
- ・従来の内容に加えて、反復練習をする時間ができ、より定着することができる。
- ・応用的な内容をより多く取り入れることができる。
- ・個々の生徒に関わる時間が増え、生徒の反応や理解度をより捉えやすくなった。
- ・理解度の差が少ないので、学習集団に応じた指導ができる。
- ・ノートへの記入や計算の速さの違いによる待ち時間は減った。

#### 国語科

- ・少人数であるため、教師が一人一人に細かな声かけなど、個人指導が出来る。
- ・生徒同士も互いを意識し合え、声かけも出来る。
- ・発表や質問がしやすくなり、学習意欲の向上につながった。結果的に宿題の提出率も上がってきた。

#### 選択教科、総合的な学習、相談室学習等

- ・選択教科ではこの時間を楽しみにしている生徒が多く、意欲的に取り組む姿勢が見られた。また、人数が少ないコースでは一人一人に合った細かな指導や、通常の授業では扱えない課題が提供できた。
- ・地域に学ぶ総合的な学習では、地域の人々とのつながりができ、視野を広げることができた。また、自主的に学ぶ力が培えた。
- ・相談室生徒の学習指導では、生徒の安心できる居場所ができ、不登校状態から自らの意志で登校できるようになった生徒が複数見られる。

### 2. 今後の課題

#### 少人数指導

習熟度別少人数指導では、同じコースの中でも学力差がある状況での授業展開をどうするか。

客観的な評価をするための細かい基準作りが必要である。

#### 英語科

- ・集中力が続かなかつたり、私語や手悪さが気になる場面がまだまだある。
- ・家庭での学習習慣がついていない生徒がまだ多い。
- ・同じコースの中でも学力の差がある状況での授業をどう展開していくか。
- ・生徒指導上の面で効果的な指導が難しいときもある。
- ・どんな応用的な内容を入れるか、生徒に応じて段階的に考えていく必要がある。
- ・同じコースの中でも学力の差がある状況で授業をどう展開していくか。
- ・受け身ではなく、みんなで授業を作っていくという投げかけをどうするか。
- ・客観的な評価をするための細かい基準が必要である。
- ・同じコースの中でも学力の差がある状況での授業をどう展開していくか。
- ・少人数での授業が生かされるよりよい授業展開をどのようにするか。

- 数学科
- ・同じコースの中でも学力の差がある状況での授業をどう展開していくか。
  - ・生徒指導上の面で効果的な指導が難しいときもある。
  - ・指名される回数が増えることで、よりプレッシャーになる生徒がいる。
  - ・意欲的な生徒も多く、理解できている生徒が多い。その反面、簡単なことを質問しにくい場面があったり、コースに悩む生徒もいる。
  - ・同じコースの中でも学力の差がある状況で授業をどう展開していくか。
  - ・受け身ではなく、みんなで授業を作っていくという投げかけをどうするか。
  - ・客観的な評価をするための細かい基準が必要である。
  - ・同じコースの中でも学力の差がある状況での授業をどう展開していくか。
  - ・少人数での授業が生かされるよりよい授業展開をどのようにするか。
- 国語科
- ・国語の授業の特性から、意見が偏ったとき、多様性が乏しいとき、教師主導の授業になりやすい。
- 選択教科、総合的な学習、相談室学習等
- ・選択教科では、開設教科が多く2時間続きでもあるため出張等での授業振り替えがきわめて困難である。選択Bでは苦手教科を選ぶ生徒もいるため、学習意欲に乏しい生徒もみられた。
  - ・地域に学ぶ総合的な学習では、地域の人との時間的な都合があり、設定が難しい場面が見られた。また、学習したことを自分自身の生き方につなげていくような方策を考える必要がある。
  - ・相談室生徒の学習指導では、生徒増により、個々の抱える様々な思いを受けとめたり、自尊感情や自己肯定感を高める対応や、進路保障を進めることが十分にできていない。

学力把握のための学校としての取組

今年度は、定期考査（中間、期末考査）をもとにして、英語・数学の各学年の平均点、素点の度数分布、個人の成績の変化を把握し、均等2分割少人数指導と習熟度別指導の有意差を把握しようと努めている。

2年生においては、学習到達度評価テストを行い、5教科の観点別到達度の評価をし、分析している

数値化できない意欲・態度については、生徒と教師へのアンケート方式で年3回実施している。

年度末に、少人数指導について保護者へのアンケートを行い、来年度の少人数指導についてのあり方を模索している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

おかやま「学びのすすめ」フォーラム パネルディスカッションにて成果を発表

（日時）平成15年8月19日（火）

（場所）鏡野町町民センター大会議室 （対象）美作地区小中学校教職員 約200名

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無